

総合教育センターだより

平成15年12月15日発行 第88号

インターネットTV授業始動

9月9日、インターネットTV授業のオープニングセレモニーが行われ、インターネット授業推進校である県内7つの小・中学校と総合教育センターとの間でTV授業が始まりました。

セレモニーでは、各推進校の紹介や理科の授業がテレビ会議システムを通して行われました。



<TV画面 推進校の様子>



<総合教育センター i-スタジオ>



<TV画面 理科の授業(色ボードを挙げて回答しています)>

「より実践的なセンターを目指して」

副所長 熊谷 均

新学習指導要領に基づく教育課程が高等学校でも学年進行で実施されるようになった今、総合教育センターの学校支援の教育サービス機関としての要請がますます高まっています。当センターにおいてもその要請に応えるべく、「より実践的に」をモットーに、各種業務の推進を心がけてきました。昨年度から始まった事業に、「生徒指導学校支援講座」があります。全県いたるところに出向き、その学校が抱えている課題あるいは要望に沿った内容で研修を実施しており、毎回高い評価を得ておりますが、さらなる充実を期すべく全所をあげて努力しております。

また、今年度9月から「分かる授業」「楽しい授業」の実現を目的とした調査研究事業として、インターネットTV授業推進事業が始まりました。この事業を進めるに当たっては、全所員あげての対応でようやく軌道に乗ったところで、毎日のように利用されており、着実に研究の成果を上げています。将来的には、より多くの学校に広がることを願っているところです。

今の時期は、来年度の講座編成作業の真っ最中ですが、各研修講座において教育実践に必要な不易の部分はしっかり押さえながら、各学校が抱える教育課題の解決、教職員のニーズに応えるように努めております。今後も、学校全体の指導力を高めるため、総合教育センター本来の教育サービス機関としての機能を一層充させながら、学校支援を積極的に推進していきたいと考えております。

インターネットTV授業

高速で大容量の通信ができるADSL回線を利用したTV会議システムを用いて、推進校の児童生徒や教員、当センターの指導主事等が、鮮明な画像を通してリアルタイムに対話しながら学習や研修に活用しています。

■ インターネット授業推進校

鹿角市立十和田小学校、本荘市立鶴舞小学校、大曲市立東大曲小学校、横手市立栄小学校、能代市立東雲中学校、男鹿市立男鹿南中学校、湯沢市立湯沢南中学校

■ インターネットTV授業等のねらい

インターネットTV授業では、推進校の児童生徒が当センターの指導主事などとリアルタイムに対話しながら学習を進めたり、推進校間で交流したりするなどして、児童生徒の学習意欲や知的好奇心、探究心を引きだすとともに、個に応じた多様な学習活動を展開し、「分かる授業」「楽しい授業」を実現することをねらいとしています。また、推進校の教員間や当センターの指導主事と教員間で、指導技術などについてリアルタイムに情報交換するなど研修にも活用します。

■ 接続のパターン

- ・当センターといずれかの1校が接続し、双方向で交流できます。
- ・推進校どうしが同時に接続し、双方向で交流できます。
- ・複数の推進校と当センターが同時に接続し、交流できます。しかも、同時に2つ以上のグループが交流できます。
- ・7校及び当センターがすべて同時に接続し、交流できます。

■ 活用の紹介

9月からの2か月間で、TV会議システムを通して、指導主事との授業や推進校間の交流を65時間、研修などを66回行いました。

【授業では】

- ・小学校1年生の国語で、指導主事が児童のスピーチを聞いて、口の開き方や声の大きさ、間合いなどについて支援をしました。
- ・小学校4年生の音楽で、アルトリコーダーの見本演奏を聴かせたり、児童一人一人の演奏を聴いてアドバイスをしたりしました。
- ・中学校の理科で、光と音に関する実験やコンピュータ画面を提示したり、生徒の質問に答えたりしました。

【交流では】

- ・福祉事務所の方を招き、一緒に手話の学習をして、

現在の天候などを学校間で手話を用いて会話しました。(東大曲小と鶴舞小)

【研修では】

- ・指導主事が不登校傾向の児童や自閉症の児童の指導について助言をしました。



<音楽の授業 演奏を聴かせているところ>

■ 児童の感想

鶴舞小学校 6年生 伊藤 麻実さん

わたしは、TV会議システムで、前まではどこに行ったらお年寄りや体の不自由な人の気持ちや不自由なことを体験できるか分からなかったけれど、TV会議システムを利用して例えば「県の福祉事務所に聞くといいよ。」などと教えていただくことができてよかったです。これからも何か分からないことがあったら、自分から進んでTV会議システムを活用していきたいです。

■ 教員からのお礼のメッセージ

十和田小学校 田中 克子先生

今日の国語の授業ありがとうございました。初めてのTV授業ということで、子供はもちろん私自身も緊張してしまいました。でも、先生の適切でわかりやすいアドバイスをいただき、発表した子はもちろん、聞いている子も、スピーチで大切にしなければならぬことが分かったようでした。今日、最後に教えていただいたことを普段の授業でも生かしていきたいと思います。私自身が大変勉強になりました。ありがとうございました。

■ インターネット授業推進室の紹介

4月1日より、当センター内にインターネットTV授業などのためにインターネット授業推進室が新設されました。室長1名、指導主事1名、研修員2名で構成しています。推進室の詳細は、次のアドレスからどうぞ。

<http://www.akita-c.ed.jp/cil/>

生徒指導学校支援講座

生徒指導学校支援講座は、総合教育センターの指導主事が希望のある学校へ直接出向き、希望するテーマに沿って講義などを実施し、生徒指導上の課題解決に向けた取り組みを支援するものです。

平成14年度途中から始まりました。
平成14年度は、申込数29校に対し実施校数17校でした。

実施校のテーマ

テーマ	小学校	中学校	高等学校	特殊教育学校	合計
不登校	1	2	2	1	6
学級づくり	6	0	0	0	6
教育相談の技法	8	3	2	0	13
その他	0	*1	0	0	1
合計	15	6	4	1	26

*は、問題行動の未然防止

今年度は、1期（実施期間8/1～10/31）・2期（実施期間11/1～1/31）と分けて実施し、のべ48校から申込がありました。
その中から1期、2期それぞれ13校ずつ、合計26校に支援講座を実施しました（これから実施予定の学校を含む）。

実施校を決めるときは、学校側の希望日時と担当の指導主事の日程、地域的なバランスなどを考慮しました。

表にあるように、テーマでは「教育相談の技法」が、校種では小学校での実施が多くなっています。

生徒指導学校支援講座を実施した学校側の声を、アンケートからいくつか紹介してみると、「全職員が一堂に会して研修できることにより、共通理解が進み、生徒への対応が充実する」、「具体的で理解しやすく、またすぐ使える内容であり参考になる」、「臨時講師にとっても数少ない研修の場であり、勉強になった」、「事前に出した事例を検討してもらい、大いに参考になった」、「センターが身近に感じられた」などの声が寄せられています。生徒指導学校支援講座に対する、熱い期待を感じました。

当支援講座の担当は、各研修部の指導主事10名となっていますが、「直接学校に出ていくことで、現在学校の抱えている問題に触れることができ、自己研修に役立った」、「限られた時間の中で学校の要望に応じていくためには、学校側との事前打ち合わせを綿密に行う必要がある」などの感想をもっています。

今後も、学校の実態に即し、学校の要望に応え、学校の役に立つように生徒指導学校支援講座を充実させていきたいものです。



「学級づくり」の演習 ～信頼体験エクササイズ「トラストウォーク」～

今年の講座ピックアップ

教職研修部

教科研修部

◆講座名「教職10年経験者研修」

担当：工藤正孝

教職10年経験者研修は今年度から法定研修として義務づけられました。教職について10年を一つの区切りとして、今までの振りかえるとともに、これからを支える資質能力の向上を図って欲しいという願いを込めたものです。

秋田県では年次別到達目標を作成し、それぞれが自らを自己点検し、自らの目標を明確にして研修を続けて欲しいと考えています。

当センターでの研修は6月12日、13日の共通研修を始めとして、小・中・特殊教育学校が11日間、高等学校が9日間、教科指導、生徒指導、学級経営、教育課程等に関する研修を行いました。

1月9日の最後の研修では、研修全体を振りかえるとともに、到達目標に照らして自己評価を行い、教員としての自分育てのための研修計画をそれぞれが作成します。この研修が、教職人生の一つのステップとなることを願うものです。

◆講座名「高等学校教職5年経験者研修」

担当：伊東金一

高等学校教職5年経験者研修においては、今年度から「企業体験研修（インターンシップ）」を実施しました。ねらいは、企業活動の実際を体験的に学ぶことで、企業理解を深め、社会の一員としての自覚を高めるとともに、教員としての幅広い識見を得、豊かな人間性の陶冶を図ることです。また、生徒のインターンシップ推進に向けての支援と理解や進路指導に役立てるとともに、教育活動を客観的、多面的に見直す機会とすることにあります。

原則として長期休業中に2日間実施しました。対象教員がどの企業で体験するかは、学校がある区内であれば自由とし、高校生インターンシップを受け入れている企業等から選択し、生徒と教員が同じ職場で体験することも可能としました。期間や時期については、2日間は短いとする意見や長期休業中以外を希望する声もありました。また、体験した教員からは、「視野が広まった」、「今後の教育活動に生かしたい」という感想が多く寄せられました。

◆講座名「郷土の文学を読む」

担当：三浦律子

開設3年目の本講座ですが、今年度は「石井露月～人とその時代～」という内容で、俳人石井露月の生誕の地、雄和町を会場に講座を実施しました。雄和町及び関係者の方々のご厚情とご協力により、露月ゆかりの地で講座を実施することができたことの意義は、とても大きかったように思います。

露月山廬をお借りしての「郷土の文学者の教材化」についての研修では、俳句のみならず国語科の指導について協議を深めることができ、充実したひとときを過ごすことができました。

講座の実施に当たって、お力添えをいただいた数多くの方々に感謝しつつ、今後も「共に教科を学ぶ楽しさや充実感を味わえるような講座運営」に努めていきたいと思っています。



◆講座名「心をはぐくむ保育・福祉の学習」

担当：三浦初子

講義ばかりではなく、実習や体験的な活動を通して学んでいただけるような講座を目指しています。

1日目は、秋田県長寿社会振興財団の施設をお借りし高齢者の疑似体験をしていただきました。

2日目は、幼稚園でかわいい幼児と触れ合う時間を設けました。少子高齢化がますます進み、2010年には秋田県は高齢化率全国1位になることが予想されています。幼い子どもを可愛いと思う体験や、高齢者にならないと分からないような疑似体験を、これから家庭を築いていく中学生や高校生の心に響く授業に役立てていただきたいと考えました。来年度は新しい訪問先を開拓したいと思い、ただ今検討中です。

アップ 講座担当指導主事が語る

情報教育研修部

◆講座名「教科「情報」の学習指導—高等学校教科「情報」—

担当：信田正之

新学習指導要領において新設された高等学校教科「情報」が、今年度からいよいよスタートしました。しかし、担当教員にとっては、全員が初めての教科を受け持つことになると同時に、模範となる事例もほとんどないため、「授業をどう進めたらよいか」といった不安の声も聞こえてきます。

このような課題を少しでも解決できるよう、今年度から専門研修講座として当講座を設定しました。1日の短い日程ですが、充実した講座になるよう、5人の指導主事で協力し合い、内容の吟味や資料の準備に多くの時間を費やしました。

講座の中で特に目玉として考えたのは、「評価」に関する内容です。「評価」は、どの教科でも緊急に求められている課題ですが、特に教科「情報」は前例がない教科だけに、「大変有意義だった」という受講者の感想が多く寄せられました。



午後に行われた「授業実践の工夫と課題」では、受講者の実践発表を中心に行い、創意工夫あふれる事例が活発に交換されました。また、「情報モラルの指導の在り方」では、情報モラルの具体的な指導方法について、事例をいくつか紹介しました。これら多くの情報を得た受講者たちからは、「学校に帰ったらすぐに授業で使いたい」という声もあがっていました。

受講者は、特に指導方法に関する情報を求めています。そこで、情報教育研修部ではknaのホームページに「高等学校教科「情報」」というフォーラムを新設しました(下図)。このフォーラムをこれからも継続して運営し、県内の教科「情報」の担当者間の意見交換や情報共有に役立ててもらいたいと考えています。

特殊教育・相談研修部

◆講座名「生徒指導における危機管理」

担当：米屋孝明

東京都立杉並区立天沼中学校校長 嶋崎政男氏を招聘し、東京都の訴訟の判例から、危機管理の総論や事例、対応の在り方などについて、危機管理の意味から実際の対応の仕方に至るまで丁寧に講義していただきました。また、すぐに学校で対応できるように、危機管理に向けた対応の仕方や手順、留意すべき事項の講義及びインシデント・プロセス法による事例検討の演習も実施しました。

突発的な事故への対応など事例に裏付けられた理論や技法について、受講者には大変好評で、「すぐに使ってみたい」等の感想が多く寄せられました。

◆講座名「障害児の自立と進路支援」

担当：曾山和彦

秋田大学助教授 内海淳氏による障害児の進路指導に関する講義と、特殊学級と養護学校の担当者による実践発表の流れで講座を計画しました。講義では「転換期の進路指導」がキーワードとして語られるなど、新しい情報の理解につながる話が好評でした。「個別の移行支援計画」については、「選択する」という経験を小学校段階から積み重ねることの大切さが分かったという感想が多く寄せられました。

来年度に向けては、受講者のニーズに応えるとともに新しい情報を発信できる内容になるよう、講座内容を吟味して計画していきたいと考えています。



教育研究発表会においてください

期 日 平成16年2月12日(木)、13日(金)

会 場 秋田県総合教育センター

日 程

12日 (木)	10:00	受付	教育研究 奨励賞 授賞式	教育研究 発表会 開会式	研究 説明	センター研究班の発表 教職員海外コミュニケー ション研修・フォーラム	12:20 13:30	昼 食	16:00	分野別研究発表 (分科会)
	13日 (金)	9:30	受付	分野別研究発表 (分科会)			12:00 13:10	昼 食	15:00	記念講演

記念講演 演題「学校教育に望むもの」

東京国立近代美術館長 元文部省初等中等教育局長 辻村哲夫氏

研究発表概要

▼<教育活動全体に機能する生徒指導の在り方>

本研究は2年計画です。今年度(1年次)は、各学校における生徒指導の機能状況を把握するために教員対象のアンケート調査を実施しました。収集データをもとに生徒指導の機能レベルを数ステップ分類し、各ステップごとに具体的な対処方法を提示します。

▼<楽しい授業、分かる授業を創る少人数指導の研究>

秋田県における少人数指導の成果と課題を踏まえ、実践事例をもとにしながら、少人数指導を効果的に行うための方向性を明らかにします。具体的には、指導方式の工夫、指導者間連携の在り方、年間指導計画の在り方などを提言するほかに、教科指導での工夫についても言及します。

▼<教員一人一人が目標を明確にした研修の在り方 ー指導力向上を目指してー>

各教員が自らの能力・適性等を十分把握し、目標を明確にして各種の研修に取り組むことで、より確かな指導力向上につながります。そこで、アンケート調査をもとに現状を把握し、課題を明らかにし、個人研修計画の策定方法や校内、校外研修との有機的な関連について発表します。

▼<導入が進む二学期制>

ここ数年、二学期制を導入する学校が増えています。本県でも今年度から30の小中学校で二学期制を導入しています。そこで、アンケート調査などから二学期制の現状を把握し、そのよさと課題を明らかにするとともに、二学期制を実施するときに配慮したい点について発表します。

▼<小・中学校における学習評価の実施状況及び高等学校における開発状況等に関する調査研究>

各学校において、「目標に準拠した評価」を実施する上での課題や、授業改善に生かすための学習評価の在り方について、現在の取り組み状況を諸資料からまとめ、中間発表をします。

お知らせ掲示板

☆☆☆ 冬休み中のプラネタリウム教室のご案内 ☆☆☆

平成16年1月7日(水)、8日(木)に総合教育センターで標記の催しをします。プラネタリウム教室の他に、星のコンサートも行います。児童生徒を通じて各家庭などにお知らせください。詳細は各小・中学校に配布するプリントをご覧ください。